



いのり×まもり

疫病退散

比叡山中興の祖 元三大師 良源 — いま靈験あらたかに衆生を救いたもう

疫病が流行っていた平安時代のある雨の夜、比叡山の良源のもとに疫病神が現れた。良源は疫病神に向かい「ここから入れ…」と、左手小指を差し出した。するとすぐさま高熱を発し、耐え難い苦痛を感じたが、良源が法力を使い、右指を弾くと、疫病神は退散し、傷みが和らいだ。

疫病の苦しみを知った良源は即座に鏡の前で禅定に入った。弟子にこれから現れる自分の姿を筆で写すよう命じると、鏡に映る良源の姿は、角が生え骨と皮ばかりの鬼の姿に変わっていった。

「一刻も早くこの姿を版木に刻んで刷り、人々に配り戸口に貼るように伝えなさい」と良源は命じた。

お札を貼ると疫病をはじめとする一切の厄災が寄り付かなくなった。以後このお札を「角大師」とあがめ、毎年新しいお札を戸口に貼るようになった。



新しい生活様式 × お寺まいり
安心して参りして頂くためにお互いさまのこころづかい



マスク着用



手指などの除菌



声量は控えめに



ソーシャル
ディスタンス